

## 動物介在療法学詳論 (2単位)

担当者氏名 太田光明・土田あさみ・川嶋舟・内山秀彦

## ◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

生物介在療法学特論(一)での内容をさらに深めることを目標に、ここでは主に動物に主軸をおいた内容とする。農学分野と教育分野の両面から検討することで、その効果や評価に影響する諸要因についてバイオセラピー学的領域からの理解を深め、より実践的な力を養う基盤とする。動物介在療法や動物介在教育を実践する上で欠くことのできない動物に関する知識をさらに広め、求められる介在動物像やその現状について検討を加え、理想的側面と現実的側面の両方から動物介在領域についての多角的視野を養う。

## ◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

動物介在療法      動物介在教育      介在動物      介在動物の育成  
 介在動物の育成      衛生と防疫

## ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	人と動物の関係における課題提起	1・2:現在のAAT、AAAについて、その有用性を考察し、人と動物の関わりが及ぼす人への影響を特論(一)よりさらに掘り下げる。	動物との関係性もたらす人への影響を理解し、動物のもつ可能性について広い視点で考えることを目的としている。よって、各自で動物を医療、福祉、教育に活用することについての意見をまとめておくこと。講義内での紹介ならびにディスカッション内で得られたキーワードを基に、書籍、文献を検索、熟読し復習から理解を深めること。
2	人と動物の関わりによる内的変化について	動物介在療法に活用される動物を考える。	
3	介在動物としての適性(1)	介在動物に求められる要素を検討する。	
4	介在動物としての適性(2)	AATやAAEに適した動物の育成方法を考える。	
5	介在動物とその育成	介在動物としての適性評価法について多面的に学ぶ。	
6	介在動物の質的保障とその評価(1)	介在動物に求められる資質、およびその判断基準について学ぶ。	
7	介在動物の質的保障とその評価(2)	育成動物をAATやAAEに活用したときの評価について学ぶ。	
8	AAT/AAAにおける評価方法	9・10:介在動物の健康や福祉と人への効果について考える。	
9	AAT/AAAにおける動物の福祉(1)	AAEの必要性について検討する。	
10	AAT/AAAにおける動物の福祉(2)	医療的活用とは異なる活動に求められる動物の資質について学ぶ。	
11	AAEの効果	動物園、博物館等の施設における人の心身の健康効果、QOL向上への応用について学ぶ。	
12	AAEに求められる動物とは	動物管理や福祉の観点から学校での動物活用のための体制を考える。	
13	動物活用に関する応用的領域	動物活用に欠くことのできない衛生について学ぶ。	
14	動物を活用するためのガイドライン		
15	人獣共通感染症		

## ◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

特に指定しない。

## ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

アニマルアイステッドセラピー／オーブレイH. ファイン編著／インターズー（2007）ほか、授業の中で提示する

---

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポートおよび討論への参加度により評価する。

---

◆オフィスアワー

随時メール等でのアポイントメントの上、研究室で質問等を受け付ける。

---

◆その他受講上の注意事項

動物に対する興味だけでなく、人も含めたあらゆる生き物に興味をもって、生き物の力を教育、福祉、健康に活かすことがバイオセラピー学であることを理解して講義に望んで欲しい。

---